

# 地学コース：平野はデコボコだ！

磯 貝 文 男

参加者：5名（申し込みは6名だったが、当日1名欠席）。

中1：1名、中3：4名（すべて公立中学生）。

自己紹介の後、本校周辺の、鼠坂～鉄砲坂～三丁目坂～附属横坂のコースを歩いて一周し、平野が単に平坦ではないことを足と目で実感してもらう。ついでに坂の高さ（高度差）や、このような地形ができた原因なども考えながら歩く。名前のついた坂道が多いが、名前だけでなくその由来を説明した看板が設置されている。地形そのものや土地の利用法などからつけられた名前などもあっておもしろい。「本郷もかねやすまでは江戸のうち」のかねやすから離れたこの辺りは、江戸時代にはかなりの「田舎」だったことなども考えながら歩く。なお、附属横坂とは大学南門前の大きくS字に曲がる坂道だが、この名前は最近のもので、地元では音羽通りと春日通りを結ぶ「音春（おとはる）通り」とよんでいるようだ。

予定したコースを一周するだけでかなり時間をくってしまう。各自の足と目でもっといろいろなことがらに気がついてもらいたいのだがやむを得ない。

会場の社会科室にもどり、まず、坂道を歩いて平野がデコボコしていることを体感した感想から話してもらう。坂道の急なこと、その高度差の大きいことに驚いたようだ。急ぐ時には、雪が積もったら、お年寄りや、…どうするのだろうなど。しかし、これも何の気なしに歩いているのでは歩きづらいくらいの感じしかもたないようで、その気になって見たので気がついた（見えた）という感想も出、ねらいの1つは伝わったようだ。

坂道のもとになったデコボコした地形のでき方を考えるところでは、例年通り断層説や天変地異説などさまざまな考えが出た。今回もこのあたりまで進んで来たところで残り時間が気になり始めた。1つ1つの考えを検証している時間がなくなり、氷河性海水準変動の繰り返しが主な原因で海岸段丘ができたという考えに強引にもっていく（氷期には海水準が下がるが、間氷期には上がることの説明は意外に時間がかかる）。やっと坂道が氷河の消長といった世界的なできごとにつながることにまでいく。

参加者の感想文から…平野とはいってもかなりの凸凹があることに驚いた、「ものの見方一つで世界が変わる」と感じたことから、今後は自分で何かをよく見て、みんなを納得させるような説をつくりたい、これからは「なぜ？」を考えて学習していきたいなどなど。平野の地形だけでなく、身のまわりのものから一般的なものへ（地学分野ではこの順が大切）をねらった点もある程度わかってもらえたようだ。

参考資料として、国語辞典や地学事典などいろいろな辞（事）典の平野の定義を集めたもの、旧陸軍陸地測量局編の地形図（1／2万、明治13年、通称関東地方二万分一迅速図）の本校付近のコピー（現在とちがって人家なども少なく地形がよくわかる）などを配った。